

(別添)

## 世界の人びとのための J I C A 基金活用事業・業務完了報告書

<b>1. 業務の概要：</b>	
(1) 事業名	グアテマラ ポアキルでの貧困削減のためのマイクロクレジット事業
(2) 実施団体名	日本ラテンアメリカ協力ネットワーク
(3) 実施期間	2018年6月1日から2019年1月31日まで
(4) 実施国	グアテマラ
(5) 活動地域	チマルテナンゴ県ポアキル
<b>(6) 活動概要</b>	
<b>①活動の背景：</b> チマルテナンゴ県ポアキルはマヤ・カクチケル先住民が住む地域です。住民のほとんどは貧困層で、とりわけシングルマザーの家庭は極貧状態にあります。近年ではハリケーンや干ばつなどの災害も頻繁に起こり、物価の上昇とあいまって、生活は厳しくなる一方です。この地域で、内戦で夫を殺された女性たちが生き延びるために集まって作った協同組合が30年前から地域の女性と子どものための活動を行っています。日本ラテンアメリカ協力ネットワークは2011年よりこのグアダループ共同組合の活動を支援してきました。このような女性たちが貧困から脱するために、マイクロクレジットは大きな役割を果たせます。担保がないために通常の金融機関からの融資を受けられない、あるいは受けられても利子が高すぎて返済できないなど、貧しい女性たちが融資を受けるのはほとんど不可能です。ですから、グアダループ組合が現在行っているマイクロクレジット事業は、このような女性たちにとっても役立っています。	
<b>②活動の目標：</b> 原資を増やして、さらに多くの女性たちにマイクロクレジットの融資を行います。この活動を通して、ポアキル地域における貧困女性とその家族の収入が増え、地域の貧困削減に貢献します。また、受益者女性たちへのオリエンテーション、モニタリングを通じて、これら女性たちが資金の管理、運用能力を身につけます。返済された資金は他の女性たちへの融資に使用し、受益者を増やしていきます。	
<b>2. 業務実施結果：</b>	
<b>(1) 実施した内容*</b>	
<b>【実施内容①】</b>	
① 12人の女性にマイクロクレジットの融資を行いました。12人のうち、新規融資が7人、継続融資5人です。融資にあたっては、グアダループ組合の融資委員会と会計士が申請者と面接したうえで、融資を何に使うかを確認し、さらにその家庭を訪問して、担保や返済	

の意思などを確認して決定しました。② 期間中 2 回の研修を行いました。1 回目は融資の前、2018 年 5 月に「戦略計画を作る」で、受益者 12 名とグアダルーペ組合委員会メンバーら計 15 人が参加しました。受け取る融資をどのように使い収益を出すかについてわかりやすく具体的な例もあげて研修を行いました。2 回目は 2018 年 9 月で「家計管理の重要性、貯蓄の習慣をつくる、収益の有効な利用」についてでした。受益者 12 名と委員会メンバーで計 15 人が参加しました。

③レコムによる視察を 2 回行い、プロジェクトの進行状況をグアダルーペ組合のメンバーと会計士とともに確認しました。

④グアダルーペ組合と会計士が、受益者女性を数回訪問し、進捗状況を確認しました。

⑤貯蓄支援 受益者が毎月利子を返済する時に、それぞれ決めた額をグアダルーペ組合に預け、グアダルーペ組合は発行した通帳に預け入れ額と残高を記入しました。

⑥コミュニティ・セービング準備

コミュニティ・セービングを行なって成功している団体の経験を学びました。そしてその経験に基づいてどのように応用できるかを検討しました。その結果、現在のポアキルの状況ではそのまま応用することは難しいとの結論に達しました。というのは、ここ 1～2 年で、農村部の小さな村にも金融機関の代理店などが増えて、個人で貯蓄することが格段に簡単になり、そのため、グループを作って現金を集めて貯めることの意味がそれほどなくなったことがその理由です。(実施成果のところで補足説明あり)

## (2) 実施成果：

① 受益者の収入向上

融資を受けた女性たちは、そのお金を使って、糸を買って織物をして売る、とうもろこし挽き機を買って商売を始める、などの仕事で、現金収入を得られるようになりました。そのおかげで、女性たちとその家族の栄養状態が良くなり、また、子どもたちの学費の支払い、文房具の購入、病気になった時に薬を買うこと、などができるようになりました。

② 女性たちの意識の変化

融資前と融資後の研修などを通じて、女性たちが、自発的に経済活動を工夫したり、その収益を活用して生活を改善するようになりました。また、生産コスト、お金の管理、家計の収支などについても考えるようになりました。他の女性たちと経験を共有し、学んだことを自分の活動に生かすこともできるようになりました。また、このような機会を得ることで、自分の努力で自分の生活を改善していけるという自信がついたことも大きな成果です。

③100%の返却率

6 月に融資を受けた女性たちは、翌々月 (8 月) から利子と元本の一部の返済を開始します。ほとんどは毎月利子のみを支払い、元本は 1 年後に一括返済します。交通の問題などから返済日が予定より数日遅れるケースもありましたが、基本的に毎月決まった額が返済されています。

#### ④貯蓄の習慣

グアダルーペ組合は、受益者女性たちに貯金の習慣をつけるよう勧めています。毎月の利子を払いに来たときに、希望者は自分で決めた額を組合に預け、1年後の返済完了時には、何らかの貯金がたまっているようにします。不測の事態に備えたり、これをさらなる生産活動に使うことができます。これは義務ではありませんが、受益者全員が毎月貯蓄をするようになりました。そのおかげで、お金の管理だけでなく、資金計画を立てることなども学んでいます。また、グアダルーペ組合は過去の受益者や組合のメンバーなどにも、貯蓄の重要性を知ってもらうようにしています。このような努力のおかげで、今年はクレジットの現受益者以外の女性が80人もグアダルーペ組合を通じて貯蓄を行なうようになりました。

毎月受け取る年金の一部を貯金するおばあさんがあったり、初めて20ケツアル貯金してから半年以上増えない人がいたり、とそのスタイルは色々です。

#### ⑤コミュニティ・セービングについて

事前に調べたコミュニティ・セービングは、以前は、田舎の村では個人が口座を作って貯金すると言うことがほぼ不可能だったので、グループを作って毎月なり1週間なり定期的に集まって、一定の金額を出し合い、それがあつた程度たまと順番に貸し付けていくというものでした。が、最近は銀行業務をする代理店（通常雑貨屋などのお店）が増えて、かなり小さな村でもこの方法で、個人で入金できるようになりました。グアダルーペのマイクロクレジットで融資を受けてその利子を払う時も、以前は受益者が毎月現金をグアダルーペ組合に持ち込んでいましたが、今は自分の村の代理店に払って、その預け証をもらい、その預け証をグアダルーペ組合に持っていく（利子の支払いの証明）というように変わってきています。その方が生活するうえでかなり便利だからです。

#### （3）得られた教訓など：

農村部で交通の便が悪く、受益者女性の中に遠隔地に住む人もいるため、訪問が大変ですが、それを改善すべく、今年度は受益者女性たちとの連絡をさらに緊密にし、また彼女たちが毎月支払いに来る度に訪問の日時を確認することを徹底しました。また、車を頼んで1日で数人の受益者を訪問するなど効率をよくする工夫をしました。

#### （4）今後の活動・フォローアップの方針：

これまでの経験で、マイクロクレジットが地域の女性たちに非常に役立っていることは明らかで、地域の貧困削減に貢献する意味でもグアダルーペ協同組合によるマイクロクレジットは継続していきます。現在借りている人たちが返済するお金を継続融資、あるいは他の人に新規に貸して、少しずつ拡大させて行きます。

レコムは、今後も視察を行い、プロジェクトの進捗を確認していきます。

地域の貧困削減にさらに貢献するため、受益者による毎月の貯蓄をさらに発展させ、コミュニティ・セービングのシステムを構築するようにします。地元での長年の活動経験を生かして、協同組合のメンバーを通じて意識化を行い、より多くの女性が貯蓄を実践して生活を改善させて行くために貢献します。

### 3. その他(エピソード・感想・写真など)

#### (1) 活動中のエピソード・感想など

フェリシアナ・チュタさんは、融資をモーター付きのとうもろこし挽き機の購入にあてて商売を始めました。グアテマラの主食はトルティージャで、ゆでたトウモロコシを挽いた練り粉を焼いて作ります。商売を始めてから、毎日収入があり、すぐに家族の食生活を良くすることができました。以前は買うことのできなかつた肉や卵、砂糖、野菜などを買うことができます。「よい食事は健康の源なので、本当によかつたと思います」と語ってくれました。

ビクトリア・アツツァクさんは、これまでどこからも融資を受けることなどできなかつたと言います。が、グアダルーペから融資を受けることができ、それで織物をする糸を購入しました。伝統的な民族衣装ウィピルを織り、それを売ります。それからでる利益で、コメや卵、肉などが買えるようになりました。子どもが二人いますが、お金がなくて学校を続けられないと思っていましたが、織物の収入のおかげで子どもに学校を続けさせることができました。教育を受けて少しでもよい将来が持てるようにしたい、とのことでした。

マルタ・ベラスケスさんは、この融資で足踏みの織り機を購入しました。これにより、幅の広い織物をおることができ、それを売って収入を得られるようになりました。収益で、子どもの学費、や菓の購入、食事内容の改善などができるようになりました。また、アボカドやブラックベリーを育てて売るなど収入を多角化することもできました。以前は買えなかつた肉を週に一回買うことができるようになったそうです。この融資をととても感謝していると話してくれました。

#### (2) 活動の写真



伝統的な機織りの最中です。



マイクロクレジット資金で買った糸で織った布を持って。



第一回目の研修会のようす



第二回目の研修会、休憩してお食事。



豚を大切に育てています。



織機を使って織物を、製作中。



↑クレジット資金で買った糸で織りました。それぞれの個性が出ています。

**(3) JICA 基金活用事業を受託したことで団体の成長につながった点・良かった点**

以前より、自分たちの活動を客観的に見れるようになったと思います。また、現地のカウンターパートであるグアダルーペ協同組合は、領収書や書類、記録の正確さを求められることによって、事務能力が向上しました。それはこれからの活動すべてに大いに役立つと思います。

以上